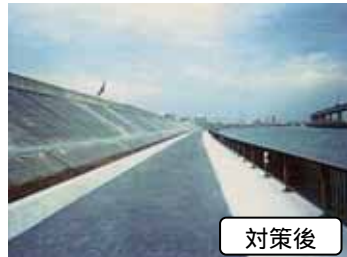


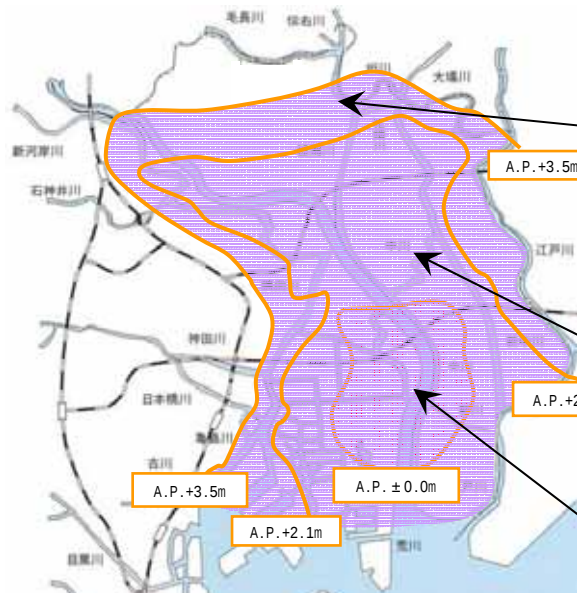
耐震対策事業の効果について

東京の東部低地帯には、河川水位よりも低い土地に人口や資産が集中しており、地震により堤防が破損した場合、極めて大きな災害が発生する恐れがあります。この低地帯を守るため、隅田川、中川、江東内部河川等の低地河川において、堤防前面を根固めするなどの耐震強化を行います。



阪神淡路大震災の状況(淀川)

阪神淡路大震災では淀川等の堤防が破損しました。低地帯では一箇所堤防が崩れると、広範囲が水没する危険性があります。



計画津波高以下の地域
(A.P. +3.5m)
174km² 人口175万人

満潮面以下の地域
(A.P. +2.1m)
124km² 人口145万人

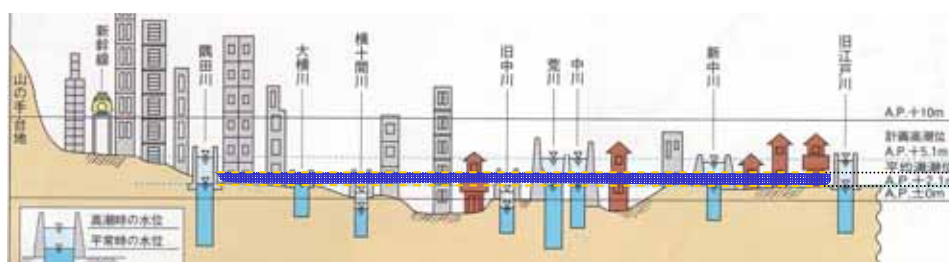
干潮面以下の地域
(A.P. +0.0m)
32km² 人口50万人

東部低地帯（計画津波高A.P. +3.5m以下）の主な都市施設

- 地下鉄 8路線 32駅
- 鉄道 10路線 43駅
- 道路（緊急交通路）157km
- 総資産 約40兆円

東部低地帯の施設一覧図

耐震対策が完了しないとこれらの施設に被害を与える恐れがあります



A.P. +3.5m (計画津波高)
A.P. +2.1m (平均満潮位)

東部低地帯の地盤高概念図